

平成27年第11回 沼津市教育委員会定例会会議録

1 日 時 平成27年11月12日（木）午後1時30分～午後2時30分

2 場 所 沼津市立図書館 4階 第1第2講座室

3 日 程

(1) 会議録署名人の指名（三好委員 土屋委員）

(2) 前回会議録の承認（土屋委員 川口委員）

(3) 議 案

なし

(4) 協 議

協議第8号 専決処分の報告について

(5) 報 告

1) 全国学力・学習状況調査に係る検証改善委員会について

2) 平成28年成人式及び新成人議会について

(6) その他

なし

4 出席者等

委員長 細沼早希子、委員長職務代理者 三好勝晴、委員 土屋葉子、委員 川口浩史、
教育長 工藤達朗、教育指導監兼学校教育課長 大川淳、教育企画室長 真野正実、
学校管理課長 山本貴史、教職員研修センター所長 望月まゆみ、生涯学習課長兼
勤労青少年ホーム館長兼ゆめとびら船山所長 中村朗、青少年教育センター所長 相磯幸代、
スポーツ振興課長兼市民体育館長兼勤労者体育センター所長 原靖、図書館長 杉山一夫、
市立沼津高等学校事務長 杉山善英、文化振興課長補佐 山内良太、
図書館事務長補佐 高橋清一、調整担当 新井寿明、教育企画室指導主事 本杉淳、
教育企画室主事 石渡輔、教育企画室主事 和泉百映、

5 会 議

細沼委員長が、午後1時30分開会を宣言する。

細沼委員長より会議を公開とすることを委員に諮り、了承される。

傍聴人2人。

細沼委員長より、会議録署名人に三好委員、土屋委員を指名する。

6 教育長報告

こんにちは。

本日は、2点ご報告申し上げます。

1点目は、月曜日、火曜日と教育委員の皆様朝早くから火曜日の夜まで視察をしていただきまして、誠にありがとうございます。教育委員の皆様と私も同行させていただきましたので、各課長のみなさんへ参考のためにご報告させていただきます。

今回の視察は、体育館関係、文化財関係、学校訪問の3つの柱で行って参りました。朝早く沼津を出発し、東京の墨田区総合体育館に行き参りました。体育館で

は、課長さんをはじめ、担当の方3名がいらして、約1時間半にわたり体育館を全部見学させていただき、説明や質疑応答と本当に丁寧に対応していただきました。予算が140億円かかったということで、これは今考えている沼津の新体育館とは大きさや予算面ではとても違っていると改めて思いました。プールを1階に設けておりその違いはありますが、体育館を非常に機能的に有効に利用できるように、大きなアリーナも細かく区分できるようにネットがあり、様々なところで工夫されていると感じました。土地は、元々あった場所に建て替えたとのことで、ハード面だけの予算で、PFIを取り入れ機能的に運営していると感じました。駐車場は100台、固定観客席はアリーナに1500席です。体育館の視察終了後、金沢へ新幹線で3時間かけて向かいました。金沢城は生憎の雨でしたが、ここには平成8年まで金沢大学があり、城跡をそのまま大学にしており大学が山の方へ移転したため、本来の城跡を発掘し再建しているというところでありました。ここでは、金沢城調査研究所の所長さん、兼六園・金沢城を管理している管理所の所長さんをはじめ、副所長や主幹等の5～6名の方が雨の中2時間にわたり、丁寧に一般では入れない場所や立派な石垣とともに案内していただきました。兼六園の隣が金沢城跡で、兼六園は有料ですが、金沢城は無料で広大な史跡や城跡が見られ、無料でやっていることはすごいと感じました。是非機会があれば行っていただきたいと思います。雨でまた寒い中、非常に丁寧にご案内ご説明ををしていただき、大変恐縮してしまいました。金沢に宿泊し、翌日も朝早く出発し福井に行き、福井市立西藤島小学校を2時間半視察いたしました。大きな目的は、福井は、全国学力学習状況調査で全国でも秋田県か福井県のどちらが上かという非常にレベルの高い県でございます。全国体力調査でも、福井県は第一位です。文武両道の県であり、その小学校を見せていただきました。全ての教室を視察させていただき、丁寧な資料とともに、校長、教頭、研修主任に対応をしていただきました。一言で言うならば、日本の昔の良さが今もって続いている市、学校であると思えました。学校、家庭、地域が、子どもたちのために、ひとつの方向性を持って、みんなで子どもを育てているところが違うという実感をしました。それと同時に、校長先生が最初に「特別のことは何もしていません」ということをおっしゃっていました。私自身が聞くと、全体的に沼津でもやっていることであると感じました。静岡県のだこの学校でもやっていることを全国のトップレベルの西藤島小学校も殆ど同じことをやっていますが、何が違うかと言いますと、学校も家庭も地域も徹底してやっているということが重要であると改めて思いました。昔の良さがそのまま残っている、子どもたちの教育にとって良い地域であると思えました。悩みは、人材が出て行ってしまうこと、一生懸命育てても、大きくなると職場等々のことで出てしまうことが悩みだと、本音のお話をしてくださいました。体育館や金沢城も学校も我々に対して、総動員のようにみなさんが出席してくださり、丁寧に本音のところでも説明してくださいました。私自身は全体的には非常に感動いたしました。沼津にも静浦小中一貫学校をはじめ、県外等からいろいろな視察があると思います。そういう方々に対して、課長をはじめ我々も丁寧に説明、対応をしてあげることが大切だと思えます。お客様へのおもてなし、おもてなしの心は改めて大事なことと思えます。そうしますと、その市がとても良いイメー

ジとして残ります。

2点目は、昨日、「沼津市青少年問題協議会」が開催されました。ここで何を話合っているかと言いますと、「青少年を取り巻く有害情報対策」を4年かけて、ひとつの提言を作ろうとしています。昨日は最終回のため、提案の原案について話合いました。「有害情報」とは何かと言いますと、携帯電話やスマホを中心に、インターネットは子どもたちに対する危険な部分がたくさんあるということです。したがって、学校、地域、家庭でどういうことをしたら良いかという話し合いをし、まとめて報告書を作っているところであります。今新聞等で出ています、京都の小学生が大麻を吸い、家宅捜索をしたところ、高校生の兄が所持していたものを吸ったとのことでした。ちょうど1月前に京都の高校生4人が大麻で逮捕されました。ですから京都で5人目です。もとは何かと申しますとラインでつながりラインでやり取りをしていたとのことです。まさに有害情報がラインで配られていました。スマホの怖さであります。スマホ等は子どもたちにとって便利ですが、反面暗い部分が出ていますと改めて思い、昨日話をしたところです。ついに小学生にまで、大麻という恐るべきものが知られ、高校生に広まったということは、京都だけに限らない可能性は十分あるということになります。我々大人はスマホ、携帯の良さとともに怖さ、その裏に潜む大麻等やいろんなアダルトサイト的なこと等が、一見普通の子どものように見えて、極一部ですがそのような部分があるということを肝に銘じて、子どもたちの教育に関わらなければいけないと感じております。

<協議事項>

- 協議第8号 専決処分の報告について
(学校管理課長 資料に基づき説明)
- 細沼委員長 説明が終わったが、本件に対するご質問、ご意見等はいかがか。
- 三好委員 専決処分というものがどういうものか教えて欲しい。また、昭和48年3月14日の議会の議決により指定された損害賠償というものは、大枠でどういふものか教えて欲しい。
- 学校管理課長 地方自治法第180条第1項で、普通地方公共団体の議会の権限に属する軽易な事項でその議決により特に指定したものは市長においてこれを専決処分することができる。と地方自治法で定められており、それが先ほどの昭和48年3月14日に指定したものになる。昭和48年3月14日の議決の内容は、市長の専決事項の指定として、1件50万円以下の損害賠償、もしくは交通事故においては、自動車保険契約に定める最高限度内における和解金もしくは損害賠償金までについては、市長の専決で処分することができる。と定められており、その条項に基づき今回は市長の専決処分を行ったものである。
- 細沼委員長 金額が多額になると、議会の議決が必要になるのか。
- 学校管理課長 専決ができなくなる。
- 三好委員 具体的にどのような状況であったのか。
- 学校管理課長 沢田小学校にある、門を入ってすぐの来賓用の駐車場に、学校に用事で

来られていたPTA関係の父兄が駐車してあった車上の桜の木が腐っており、直径5センチ、長さが70センチくらいの幹が落下してしまったためである。樹木の剪定や管理は行っているが、桜の木はなかなか剪定をしない傾向があり、腐っていたことに気づかなかった。そういった中で、敷地内の管理や細かいことだと草木の栽培や剪定は用務員さんが行っているが、大きな木などの剪定は業務委託をし業者に行ってもらおう。

- 三好委員 落下するということは、折れかかっていたのかもしれない。
- 学校管理課長 その後すぐに、これらの対処をした。
- 土屋委員 人的な被害はなかったのか。
- 学校管理課長 人的被害はなく、大丈夫であった。
- 土屋委員 子どもたちがいる時に起きたら大変であり、人的被害が無くて良かった。
- 学校管理課長 今後、そこは徹底したいと考えている。
- 細沼委員長 自動車の天井が損傷したのか。
- 学校管理課長 ボンネットほか3か所が傷や凹みで損傷してしまった。
- 細沼委員長 ご意見もつきたようなので、協議第8号については原案とおり議案とすることで良いか。
- 各委員 異議なし。
- 細沼委員長 異議ないようなので、協議第8号は議案とすることで可決する。

<報 告>

1) 全国学力・学習状況調査に係る検証改善委員会について

(教職員研修センター所長 資料に基づき説明)

- 細沼委員長 説明が終わったが、本件に対するご質問、ご意見等はいかがか。
- 細沼委員長 これは、配布されているのか。
- 教職員研修センター所長 はい。10月中に、すでに配布済みである。
- 三好委員 これは、保護者用のリーフレットで、このようなものを作って、保護者に差し上げて、このように指導をしていきたい、家庭も協力してやって行ってくださいという意味を込めて、学校で説明を加えて配布しているものであると思う。学校で配布して、子どもが父兄に渡しても父兄が殆ど見ていないという現実があるのではないかと思う。これはいつの世も同じだと思う。先日福井に行ったときに感じたことは、1年間いろんなことを学校から子どもたちに宿題を出したり、教えていることの振り返りをひとつのチェックシートにし、これを、学校と子どもと家庭が共通して使用するというチェックシートを作っている。これは、具体的な振り返りがやりやすいものになっているような気がした。もちろんリーフレットを見ている父兄は見ていると思うが、紙として出してしまうだけではお題目になってしまい、見てもらえなければ何の役にも立たない。福井では、とても具体的に家庭と学校と子どもたちが同じチェックシートでチェックができるものを学校側が提案して発信しており、これを使って保護者説明会をやることであった。西藤島小学校の独特のものかもしれないが、あれはとても

良いと思った。このような保護者リーフレットはもちろん大事なことであるが、各学校にも、そのようなことや方法があるという提言をしていただくことも良いと思う。学習というのは、これをやりなさいあれをやりなさいだけでは、実際には身につかないため、振り返りを行うようなところへ繋げてあげると子どもたちの意識がつくような気がする。学力調査は点数を取るため、全国でビリにならないためではなく、本来の目的と主旨を我々がはき違えてはいけないと思う。沼津市独自の学力調査を最近始めているが、そこも子どもたちのためになるという意識は常に忘れないということとはとても大事だと思う。そういう意味で、各学校の隅々まで行き渡るように委員会から働きかけていただけるといいと思う。

川口委員

まさに、三好委員がおっしゃるとおりで、自己チェック、自己評価をする取り組みを児童生徒だけにやらせるのではなく、先生と家庭が同じシートを使って行うことに意味があると思う。一緒に育っていくという視点が非常に良いと思った。福井市の学校を訪問し、先生方がおっしゃった言葉の中でキーワードは「当たり前」だと思った。「当たり前のことを当たり前に行っているだけ」というお話があり、当たり前のことを当たり前に行っていることがすごいと感じた。沼津市でも、当たり前のことが当たり前に行える環境が子どもたちに持てるといいと思った。

土屋委員

西藤島小学校の全クラスを見せていただき、基準のクラス編成ではあるが、一クラスの人数が比較的少ない学校であり、先生の目がとても行き届いていることと、子どもたちがとてもいきいきしていた。私は、毎年沼津市内の同じ小学校に歯科校医として行っている。私が行く学校は大きく大人数の学校であり、子どもたちがいきいきしているかどうかは感じる。ひとりひとりを見るだけであるが、今年の1年生はいきいきしているなど、また学年差があったり、全員を見るので感じるができる。訪問した福井市の学校の子どもたちは本当にどの子もいきいきしていた。家庭の目がとても行き届いている子どもたちが多いと感じた。3世代同居の世帯が全国でも多い方だと言われているので、おじいさん、おばあさんの目がとても届き、子どもたちが宿題をやっているかやっていないかななどもおそらく一緒に見ている、共稼ぎで母親が働いている家庭が全国でもとても多いが、母親の目が届かないところも、家庭で他の家族がしっかり目を届かせて、子どもたちの教育ばかりでなく、生活に目が行き届いているので元気でいきいき毎日生活できているのだと感じた。それと、大勢の目が届くので安心感がある。私はいじめが少ないのではないかと思い質問したが、目が行き届いていると子どもの細かな心の動きに気付くことができる大人が1人でも多くいるということは、いじめられていても親が知らなかったという悲しいことが少なくて済むのではないかと感じた。これは、生活環境なので沼津ですぐに実行するということは難しいと思うが、良いお手本を見せていただいたので、少しでも近づけて子どもを育てていただけたらありがたいと思った。

- 三好委員 付け加えてお話したい。これは教育委員会でどうもしがたい問題であるが、全体的な感じとして良いと感じたことは、学校を信頼している。父兄が、学校を疑わず、お任せしたのだからという公立の学校であるという意識が強い。そういう地域性のようで、静岡県がどうこう、我々がどうこうと言っても仕方ない問題であるが、そういう意識があるというところは、それなりに子どもたちが、のびのびしていくという感じを受けた。
- 細沼委員長 子どもたちがいきいきしているという共通の印象であるが、いきいきしているが、教室の雰囲気は非常に落ち着いており、收拾がつかないやざわついているなどの雰囲気はなかった。西藤島小学校で資料をいただきお話を伺っている中で、福井県独自の学力調査で福井県全体より回答が良くなかった部分の課題について3つほどあったが、沼津の課題と同じであった。
- 教育長 委員さん方のお話にあったように、社会的な問題で言うと、三世代同居が日本で多い方で、共稼ぎがとても多い。宿題をたくさん出すとのことであり、他県から来た方が、こんなに宿題があるのかとびっくりするほど出すが、それをみんなやってくるとのこと。親は共稼ぎのため、おじいさんやおばあさんが、きちんと見ているというところは、すぐに同じようにということはなかなか難しいことであるため、そこはできる範囲内で精一杯行うことが大事だと思う。昔の日本の良さが今も残っている。あの雰囲気が、ずっと続くかということと、人材が出てしまうことを心配していた。公立志向で、私学が少なく、家庭が全面的に学校を信頼している土壤がある。その土壤があるから真似をしようとしてすぐにできるものではないと思うが、あの雰囲気は非常に大切だと感じた。
- 細沼委員長 その他ないようなので、本件は報告を受けたということでご了承承りたい。
- 各委員 異議なし

2) 平成28年成人式及び新成人議会について

(生涯学習長 資料に基づき説明)

- 細沼委員長 説明が終わったが、本件に対するご質問、ご意見等はいかがか。
- 土屋委員 新成人議会の応募者は毎年ないのか。
- 生涯学習課長 応募はない。
- 土屋委員 この方達は、各地区から推薦されたのか、どのように決まったのか。
- 生涯学習課長 成人式は、各地区にお任せしていることから、主だってやっていたらいる青少年を健やかに育てる会が各地区にあり、そことその実施部隊の育成委員に推薦を依頼した結果、各地区2～3名推薦をいただいた。
- 三好委員 新成人議会の出席者に、高校生の「高校生しゃべり場inぬまづ」が始まった当初の方がそろそろ成人を迎えるのではないか。
- 生涯学習課長 しゃべり場は、今年で3回目なので、1回目の時高校3年生だった方が今年で二十歳になる。
- 三好委員 しゃべり場に出ている高校生は必ずしも沼津市民とは限らないが、新

成人議会と何か連動性が持てないかを感じる。必ず出てくれというものではないが、高校生の時に考えたことと、大学に行った方は二十歳の時には大学2年生になっているので、その時代にまたどのように思っているのかなどのつながりを持たせるとおもしろいかと思う。今、各地区から出ている方は、誰が優秀だったかなどで決めていると思う。せっかくしゃべり場を作っているのだから、ここと連動を持たすことはおもしろいと思うが、いかがか。

生涯学習課長 高校生のしゃべり場を始めてから、今はその場だけに限らず、高校生の活動としていろんな広がりを見せているという状況がある。ひとつに、高校生の広報誌「たぶろいど」を制作しているので、その中にこの新成人議会のことを載せていただくなど、高校生に、新成人議会のことを広く知っていただく機会も増えてきた。そのような活動をする中で、しゃべり場に出てきた高校生たちにこういうものがあるのだと、改めて知っていただき、2年後二十歳になった時にはなど新成人議会のことが会話の中に出てくることがあるので、その方たちが、出てきてくださる可能性は今後あるのではないかと期待している。

三好委員 働きかけることは良いと思う。高校生のしゃべり場の時に、2年後3年後には新成人議会というものがあると知らせることは必要。高校生の1年生か2年生の時に出来て来て、それまで全く知らない生徒がいて、それをひとつの単発的なことに終わらせないで、やっていること自体に厚みを持たせていくために、いろんな連動をしていくことを行政として取り込んでいくと面白いのではないかと思う。

生涯学習課長 新成人議会も、すでに18回という長い期間開催しているが、第1回目の方は38歳になろうというところで、社会に出て中堅で活躍されている方が多いと思うが、新成人議会に出た方のその後のフォローには難しさがあるが、そことも何か繋げていくことができないか、昨年あたりから、新成人議会に出た方には、今後のため、連絡先やメール等を教えてくださるようお願いをし、教えてくださった方とは、今後の沼津市との交流や、何かあるときに意見をいただくなどの形が取れるよう、少しずつでもコンタクトが取れるような形を考えている。

三好委員 ただ思い出だけを作れば良いというのではなく、その場だけをちょっとやるだけではひとつの運動として起こしたとしても、人材が育っていかない。ものによってはそれをしっかり育てていくというスタンスはとても重要だと思う。

細沼委員長 これらの参加者の質問内容は、出席者が自ら考えていることか。

生涯学習課長 そうである。推薦をいただき、案内をするときに、沼津市に何か質問があればお知らせくださいと案内を出した結果、今回は12名の方から質問をいただいた。例年に比べると多い。

細沼委員長 質問内容を拝見すると、タイムリーな、沼津市の取り組むべき問題が網羅されている気がするが、自然にこのような質問事項が出て来たのか。

生涯学習課長　　そうである。例年同じような形で案内を出しているが、大学生が多く、大学で学んでいることを沼津市に置いて質問をしている。1番の方は食育についての質問であるが、栄養学を学んでいるということである。居住している地域性のこと、津波のことや災害対策のことを選んだという方もいた。実際の普段の生活に当てはめて、沼津市に対する意見として出している。そのような方が多いと感じている。

細沼委員長　　それぞれの質問が、大変興味深いので、どういう答弁がなされるか楽しみである。

細沼委員長　　その他ないようなので、本件は報告を受けたということでご了承願いたい。

各委員　　異議なし

細沼委員長　　そのほかになにかあるか。特にないようなので、以上をもって本日の定例会を終了する。

午後2時30分　　閉会。